

経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

平成 30 年6月 28 日(木)午後2時 07 分～午後2時 23 分(9階 908 会議室)

○出席委員(8名)

委 員 長	石原洋三郎	副委員長	誉田 憲孝
委 員	佐々木 優	委 員	斎藤 正臣
委 員	黒沢 仁	委 員	佐久間行夫
委 員	山岸 清	委 員	渡辺 敏彦

○欠席委員(1名)

委 員 後藤 善次

○市長等部局出席者(なし)

○議 題

(1) 所管事務調査について

(2) その他

午後 2 時07分 開 議

(石原洋三郎委員長) それでは、経済民生常任委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりです。

初めに、所管事務調査についてを議題といたします。

まず、調査テーマについて協議する前に、6月18日の定例会議閉会后、副委員長とともに市長への提言書提出を行ってまいりました。私のほうからは、提言の中でも大学との連携についてを特出しで説明させていただきました。市長からは、提言全般について、真摯に受けとめて検討していきたいということ、そしてさらにプラスアルファの政策提言だと行政側も課題が山積しており、もたない。ぜひ議会にもスクラップ・アンド・ビルドの視点で議論をしていただきたいとの話があり、経済民生常任委員会からの提言に対しては、大学との連携については非常に重要と考えており、関係を深めていきたい。道の駅についても相乗効果が期待できるため、地元地域の意向も踏まえ検討していきたいといったコメントがありましたので、この場をおかりして提言書提出の際の様子をご報告させていただきました。

市長への提言提出の件について何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長）なければ、所管事務調査の協議に移ります。

前回、6月定例会議中に開催した委員会において、次の所管事務調査のテーマについて委員の皆様からさまざまなご意見を頂戴いたしました。また、その際、テーマ選定にあたっては正副委員長一任という形で最終的なご了承もいただいたところであります。

正副委員長といたしましては、前回の皆様の貴重なご意見やこれまで委員の皆様へ配付した参考資料などを参考にしながらさまざまな検討を何度もさせていただき、案を1つに絞らせていただいたところであります。

これからの所管事務調査（案）を配付いたしますので、まずはそちらをごらんいただければと思います。

【資料配付】

（石原洋三郎委員長）まずは、お手元の所管事務調査（案）を書記に朗読させます。

（書記）では、私のほうからお手元の所管事務調査（案）を読み上げさせていただきます。

まず、1番、調査事項につきましては、地域密着型プロスポーツチームとの連携による地域の活性化に関する調査ということで、2番、調査の目的でございますが、交流人口の拡大や地域コミュニティの醸成、商工業の活性化、にぎわいの創出など、地域活性化効果が期待できる地域密着型プロスポーツチームの存在が全国的に注目を集めており、各自治体においては限られた財源の中で行政課題を解決するための有効な手段の一つとして協働によるさまざまな取り組みを実施し、積極的に活用している。このような中、本市においても地域密着型プロスポーツチームの存在を重要な地域資源の一つとして捉え、民の力を活用した相乗的な地域活性化をさらに推進するため、連携の手法や支援のあり方について調査研究する。

3、調査の方法、当局説明や参考人招致、行政視察等により地域密着型プロスポーツチーム（スポーツホームタウン）がもたらすさまざまな地域活性化効果や連携手法、本市の取り組みの現状、課題等を調査し、今後の推進可能性について研究する。

4、調査の期間、平成30年7月から調査終了時までの期間（3月定例会議）までということでございます。

以上でございます。

（石原洋三郎委員長）若干私のほうから内容の補足をさせていただきます。

（案）の調査の目的をごらんいただければと思います。ここに記載のとおりではありますが、今全国的にもプロスポーツチームが存在することによる地域にもたらされる活性化効果というものが注目を集めており、本拠地が置かれている各自治体では、限られた財源や人員の中での行政課題を解決するための有効な手段の一つとしてプロスポーツチームを積極的に活用しております。

現在本市においても地域密着型プロスポーツチームが存在はしているのですけれども、まだまだ認知度も低く、市民に定着しているとは言えない状況が何年も続いております。地域密着型プロスポーツチームの存在は、ある意味本市が持つ重要な地域資源の一つと本来は言えるところではありますが、そういったところでなかなか関心も低いという状況があると言えます。そういったせつかくの地域資源を失わないように、あるいは無駄にしないようにするためにも、有効活用方策を検討して、官の力だけではなくて、地域密着型プロスポーツチームという民の力も利用した相乗的な地域の活性化を図っていくことが重要と考え、テーマを選定したところであります。

また、どうなっていくかはわからないのですが、先日市長が中心市街地の検討委員会や公共施設再編の検討委員会を有識者に委託して検討を始めましたが、そこにもサッカースタジアムというテーマも上がっていたところでありますし、うまくプロスポーツチーム、地域密着型が盛り上がっていけばにぎわいの創出、市街地の活性化、交流人口の拡大など、地域経済の振興にも当てはまるテーマではないかなと思っております。最終的には、スポーツコミッションやスポーツツーリズム、インバウンドなど、大きな観光事業にも発展していく可能性はあるテーマであろうと思われます。

また、場所によっては、例えば福島というマイナスのイメージが強いのがあるのですけれども、そういったマイナスのイメージが払拭されている地域というのものもあるやに聞こえているところであります。

また、先日提言書を市長へ提出に行った際も、事業をプラスアルファというところだけではなくて、スクラップ・アンド・ビルドとか、あるいは民間の力をやはり有効活用してというような話がありまして、官民連携という観点からも事業の効率化につながるテーマではないかと思うところであります。

また、皆様からいただいたテーマもさまざまあったのですけれども、特に今回のテーマというのは今まで光が当てられていないテーマではあるのではないかなと思ってあえて選定をさせていただいた次第でございます。

私からの説明については以上であります、委員の皆様からご意見等ございますでしょうか。

なお、後藤委員は欠席されているのですが、事前にご説明させていただいてご了承はいただいているところであります。

(山岸 清委員) 3月定例会議というのは、これは来年の3月末だね。

(石原洋三郎委員長) そうです。スケジュールに関してもまたちょっとご相談させていただきたいと思っているのですけれども、3月に委員長報告をしたいなと思ってはいるのですけれども、この後ちょっとスケジュールについてもご相談させていただければと思っておりますが。

(佐久間行夫委員) これ指標として交流人口をふやすとか、経済民生でやるなら経済の活性化とか、交流人口をふやすとかっていろんな目標があるのだと思うのですけれども、そういうことに向かっていくということだよな。

(石原洋三郎委員長) そうです。そういう交流人口の拡大とかスポーツツーリズムとかにもつながっ

ていければとか、あと郷土と地域密着なので、一体感。

（佐久間行夫委員）競技力向上とか、そういうことではないよね。

（石原洋三郎委員長）一体感の向上とか、地域コミュニティの醸成。

（佐久間行夫委員）一番上に書いてあるように。

（石原洋三郎委員長）そうです。地域コミュニティの醸成、商工業の活性化、書いてあるようなところがあるのですが、あと地域アイデンティティーの確立も含めて、そういうことを調査研究していく中で導き出していければなと思っています。

（佐久間行夫委員）我々 J 1、J 2、J 3 見ていると、待遇のいいところからいい選手がずっと全国並んでいって、そういうことで決まってしまうようなところあるではないですか。また、高校野球なんかでも甲子園に行くには昔の P L とかなんとかって全国の序列というのは決まっていて、どこでもいいから、日本中の人たちがその序列に入っていくのだよね、自分の実力の中で。そうすると、地域との密着性ではなくて、例えば聖光学院は地元の子が 4 番で打っているから、いいとかというのあるけれども、そういうようなかわりの中で地域とプロスポーツチームとの密着性ってなかなか難しいところあるのかなというふうに思うのね。一人も福島の人がいらないのに、みんなで応援だけするというのは何となく。いればみんなで盛り上げられるのだけれども。

（石原洋三郎委員長）そういうおっしゃった課題がやっぱり今の現状認知度が低いというところも大きいかなと思うのですけれども。

（佐久間行夫委員）東高校とか県工だとか尚子高校から入った子が中心になって地域密着の中でプロスポーツとして育てていくというなら何となく育てがいもあるのだけれども、何となく全国序列の中でどこかで育ってきた人がこっちに来て、自分たちの子供たちがほかに行ってしまうというのは地域密着とはちょっと外れるのかなという感じもするのだけれども。これから調査してどうなるかわからないけれども。

（石原洋三郎委員長）そこは大きな課題だと思います。

（渡辺敏彦委員）文教とのすみ分けというので、それは事務局とよく相談をして、余り立ち行ってしまうとよろしくないの、その辺調整として上手にやってください。

（石原洋三郎委員長）一応所管は商工観光部にはなっているみたいなのですが、ただ渡辺委員おっしゃるとおり、その課題は出てくると思いますので、そういったところも含めながら。

（石原洋三郎委員長）よろしいでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長）それでは、正副委員長案のとおり実施してよろしいということでご了解賜ったということでよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長）ありがとうございます。それでは、このように進めさせていただきます。

次回以降、調査の進め方として調査のスケジュール感などを協議してまいりたいと思います。

あと、ちょっと気が早いのですが、秋の皆さんの日程って比較的埋まるのが早いので、行政視察の日程だけ今のうちに押さえておきたいと思います。

11月の5、6、7、8、9のあたりを……。

【「11月」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長）11月です。

では、押さえておいていただければと思います。

そのほか皆様から何かございますでしょうか。

（佐久間行夫委員）調査期間なのだけれども、3月で終わると、任期中だと中途半端になってつつもあるのね。これ6月まででもいいのでないの。

（石原洋三郎委員長）無理をしなければ6月までということも。

（佐久間行夫委員）3月終わるとまだ7月まで任期あるのだから、また何かやらなくてはいけないというとまた中途半端になってしまうから、それともやらないというふうに決めるならそれでいいけれども。

（山岸 清委員）6月までやっていたらいいのではないの。

（佐久間行夫委員）逆にね。そういうほうが終わるの楽なものね。

（山岸 清委員）3月に結論出たって、それ6月に報告すればいい。

（佐久間行夫委員）そこはほかの委員会との兼ね合いは考えなくてもいいのだろうけれども、これはあくまでも目的、調査内容に応じて期間が決まるのだろうけれども、そのほうがいいのかと思います。

（黒沢 仁委員）ほかの委員会との兼ね合いもあるだろうから。

（佐久間行夫委員）その辺どうするか。

（石原洋三郎委員長）そのほか皆様から何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長）なければ、以上で経済民生常任委員会を閉会いたします。

午後2時23分 散 会

経済民生常任委員長 石原 洋三郎